

## 【気づき・問題】

【例題】 次の文章を正しく並びかえてください。

A：そこで、私は作業をするのを諦めました。

B：まず、昨日の出来事についてです。

C：しかし、どうしても電源はつきません。

D：初めに、パソコンの電源を入れました。

以上のように、1文ずつがばらばらに並べられています。これを文意が通じるように、正しく並べかえてください。

この場合では、接続詞に着目しながら順序立てていくと、

「B→D→C→A」

となります。

実際に並びかえた文章は以下のとおりです。

まず、昨日の出来事についてです。初めに、パソコンの電源を入れました。しかし、どうしても電源はつきません。そこで、私は作業をするのを諦めました。

このように、正しく並びかえると、意味の通じる文章が完成します。

ここでは、以上のように、ばらばらになった文章や単語を意味の通るように正しく並べかえてもらいます。

しかし、難易度が上がるにつれて、並びかえの順序が複雑になったり、不必要な文章を排除することもあります。さらに、適切な接続詞をつけ加えることも必要になります。

## 【気づき・問題】

### 【問題 1】

- A：そのため、来年度の物産展の成功に向けた取り組みを旭川市では積極的に進められていると思っております。
- B：また、道北の魅力発信、地域の活性化に結びつくのではないかと考えています。
- C：ことし、ユジノサハリンスクで物産展の開催の成功に向けての協定覚書を交わされました。
- D：そして、1月28日、旭川でロシア・サハリン海外進出セミナーも開催されているところでございます。
- E：この動きによって、ロシア・サハリン州との地域間交流のさらなる促進が図られると思います。

回	答	→	→	→	→
---	---	---	---	---	---

## 【気づき・問題】

### 【問題 2】

- A：来年度は、この再発見ツアーのほかに、夏の移住モニターツアーを実施する予定でございます。
- B：さらに、3月には、今年度の取り組みを締めくくるフォーラムを開催する予定でありまして、ワークショップで抽出されました地域の魅力を披露するほかに、この魅力を盛り込んだ住民再発見ツアーを発表し、来年度の実施に向けた募集を開始する予定にしております。
- C：北海道の地域づくり総合交付金と再生加速事業を活用し、平成24年度、25年度の2カ年の事業を現在実施しているところでございます。
- D：そして、11月から12月にかけて、13の市町村を四つのエリアに分け、この地域に移住された方や地域おこし協力隊の皆さんや地域づくりに熱心な皆様方に集まっていただき、ワークショップを開催し、地域の魅力を語り合っていただく活動を行いました。
- E：また、FMのラジオ番組「天塩川物語」の放送も引き続き行いますし、首都圏でのプロモーションも引き続き実施していく予定であります。
- F：また、昨年秋には、首都圏での天塩川地域のプロモーション活動を2回にわたり実施しました。
- G：今後は、首都圏でのプロモーション等でも要望させていただきましたが、2月末にこの地域に移住を希望する皆さんへのモニターツアーを実施する予定です。
- H：まず、地元のFM放送局のFM名寄で毎月の最終金曜日に30分のラジオ番組「天塩川物語」を放送しております。

回 答	→	→	→	→	→	→
-----	---	---	---	---	---	---

※この問題では、1文だけ不必要な文章がまざっております。それを取り除き、7文を並びかえて回答してください。

## 【気づき・問題】

### 【問題3】

- A：そこで、土地を最初から買うことは難しい状態ではありますが、その入り口として、農業をやってみたいという方を農村に定住させることが重要ではないかと考えてございます。
- B：圏域としては魅力的であるとも考えられますが、小さい地域で考えると行き詰っている部分がありますので、いいアドバイスをしていただければ農業を推進できる地域になるのではないかと思います。
- C：農業後継者における花嫁対策についてです。
- D：でも、鷹栖町の場合は水田が中心ですから、農業に魅力を感じてもらえない部分があります。
- E：ただし、道外から募集はしているのですが、人数もだんだん少なくなってきている状況にございます。
- F：そのため、市街化区域での宅造が進み、鷹栖町では人口を維持しているのですが、農村部の過疎化が進み、宅地だけが残ってしまい、それに手をつけることができません。
- G：本町では、昭和45年に、市街地整備と農業の保全を目的として、都市計画区域を設定させてもらい、線引きしてございます。
- H：なぜなら、農家の方ではないと宅地の増改築や新築ができない法律があり、ニーズにマッチした定住対策ができない現状になっているからです。
- I：そういうことから、定住対策として何かいい方法はないかと考えております。
- J：ですから、旭川と愛別と鷹栖の三つの市町で協議会を持ち、花嫁対策をとっております。
- K：未婚化、晩婚化が進んできているのですけれども、美瑛町や東川町などは観光地のためにイメージがすごくいいので、花嫁対策が進むと思うのです。
- L：農村部における定住対策についてお話をしたいと思います。
- M：しかし、国営農地再編整備事業で水田が大きくなり、若い人たちの中には戻ってきて農業をしたいと言う方もいらっしゃるのです。

回 答	→	→	→	→	→	→
回 答	→	→	→	→	→	→

※ここでは、二つの主題に分かれております。それぞれを並びかえてください。